(2)モデルは多様であるので，情報交換が必要かつ重要である．

(3)気象庁に期待することは，初期値・境界値の提供とデータ同化である．

(4)全球モデルの非静力学化を行っているので，これについても情報交換ができる場が必要である．また，異なる物理過程の導入と評価ができるような会合もよいと思う．気象庁へは，全球モデルに関する情報の提供も要望したい．

○松村崇行（気象庁数値予報課）

(1) 全球モデルについても提供可能である．

(2)全球モデルについては，気象庁以外でも開発している機関があるので，協力してモデル開発を進めていきたい．

(3)データは，支援センター経由で入手可能である．

(4)データも提供して，気象庁以外の専門家に厳しく評価してもらうことが必要であると思う．

上記のコメントをふまえて，気象庁ではモデルフォーラムに替わる，モデルの情報交換を行うことのできる新しい場を提供していきたいと考えている．また，多くの参加者から要望のあった，モデルの利用条件の緩和やデータ提供の拡大等については今後の検討課題としたい．

（敬称は省略させて頂きました．）

情報 File

武田シンポジウム2005開催のお知らせ
バイオテクノロジーは生活者を豊かにするか

ヒトをはじめ種々の生物のゲノム解読と機能解析が急速に進んでいます．そして，これらの知識を応用した遺伝子組換え食品，遺伝子治療，クローン動物，再生医療などが身近なものになりつつあります．こうした新しい技術は，私達にどのような影響をもたらすのでしょうか．今回のシンポジウムは，日本におけるバイオテクノロジーの現状を通して，バイオテクノロジーがもつ様々な利点と問題点を理解し，共に考える場にしたいと思います．

日　時：2005年2月5日(土)　13：00-17：00

会　場：東京大学　武田先端知ビル
武田ホール（5階）（文京区弥生2-11-16）

定　員：300名（先着順に受付，定員になり次第締切）

【入場無料】

13：00　挨拶-武田郁夫（武田計測先端知財団理事長）

第一部　日本のバイオテクノロジー

13：10「バイオテクノロジーとは何か」　松原謙一氏（株式会社DNAチップ研究所社長）

13：30「サントリーは，なぜバイオテクノロジーに取り組むのか」　田中隆治氏（サントリー株式会社生産技術応用研究所長）

14：15「トヨタは，なぜバイオテクノロジーに取り組むのか」　築島幸三郎氏（トヨタ自動車株式会社バイオ・緑化事業部長）

15：00-15：15　休憩

第二部　パネル討論

バイオテクノロジーは生活者を豊かにするか

15：15　基調講演　黒川　清氏（日本学術会議議長）

15：45　パネル討論

モデレータ　宮田　満氏（日経BP社先端技術情報センター長）

パネリスト　黒川　清氏・田中隆治氏・築島幸三郎氏・松原謙一氏・鈴木基之氏（放送大学教授）

17：00　終了

申し込み先：http://www.takeda-foundation.jp/

問い合わせ先：sympo@takeda-foundation.jp

主　催：武田計測先端知財団

後　援：毎日新聞社，日経バイオテク，日経バイオビジネス

財団法人武田計測先端知財団
〒104-6591　東京都中央区明石町8-1
聖路加タワー31F私書箱33号
Tel：03-3549-2781，Fax：03-3549-2787
池田　純子